



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月11日

上場会社名 株式会社 ビケンテクノ
コード番号 9791 URL <https://www.bikentechno.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶山 龍誠

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画室長 (氏名) 神月 義行

TEL 06-6380-2141

四半期報告書提出予定日 2022年11月14日

配当支払開始予定日

2022年12月8日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	17,620	8.2	1,262	53.2	1,466	46.5	940	36.8
2022年3月期第2四半期	16,288	0.1	823	129.9	1,000	177.2	687	257.1

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 869百万円 (28.7%) 2022年3月期第2四半期 676百万円 (288.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	124.67	
2022年3月期第2四半期	91.15	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	38,014	19,067	50.2	2,527.61
2022年3月期	39,718	18,292	46.1	2,424.91

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 19,067百万円 2022年3月期 18,292百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		10.00		10.00	20.00
2023年3月期		10.00			
2023年3月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,500	9.9	2,000	41.5	2,100	4.3	1,300	4.2	172.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	7,718,722 株	2022年3月期	7,718,722 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	174,966 株	2022年3月期	174,966 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	7,543,756 株	2022年3月期2Q	7,543,795 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.311「当四半期決算に関する定性的情報(2)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるビルメンテナンス業界を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の第七波が収まりつつあるとはいえ、経済活動が全面的に回復するまでには至っておりません。また、本年2月後半から始まったロシアによるウクライナ侵攻が長期化しており、その影響が資源価格の高騰にも繋がっております。各国の為替相場も、円安を含めて不安定化しており、事業環境は引き続き不透明な状況にあります。

このような状況下、当社グループにおいても、特にホテル事業やフランチャイズ事業については大きな影響を受けることを前提に事業展開を進めておりますが、それぞれ徐々に回復の兆しが見えつつあります。また、物流施設関連のメンテナンス業務の受注や、お客様の事業形態の変化による事務所移転・集約に伴う原状回復工事等の受注等が、コロナ禍前を上回る状況にあります。不動産事業においては大口の不動産売却が成立し、案件売上は前年同期に及びませんでした。事業利益については大きく上回りました。以上の要因から、前年同期と比較して売上高、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は17,620百万円（前年同期比8.2%増）、経常利益は1,466百万円（前年同期比46.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は940百万円（前年同期比36.8%増）となりました。

セグメントの概況は、次のとおりであります。

① ビルメンテナンス事業

ビルメンテナンス事業では、コロナ禍による経済活動停滞の影響はありますが、物流施設関連のメンテナンス業務の受注増、お客様の事業形態の変化による事務所移転・集約に伴う原状回復工事等の受注増等、コロナ禍における除菌作業等の受注増、後ろ倒しになっていた業務の取込等により、前年同期と比較して売上高、セグメント利益が増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は14,202百万円（前年同期比9.9%増）、セグメント利益は1,815百万円（前年同期比20.1%増）となりました。

② 不動産事業

不動産事業では、不動産の売買、仲介及び保有している不動産の賃貸等を行っております。当第2四半期連結累計期間においても大口の不動産売却が成立し、前年同期の不動産売却と比較して売上規模においては及びませんでした。利益面では上回ることであります。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,173百万円（前年同期比2.2%減）、セグメント利益は619百万円（前年同期比36.0%増）となりました。

③ 介護事業

介護事業では、介護施設の運営や介護サービスの提供を行っており、入居者様・ご家族様の立場に立った高いレベルのサービスを提供しております。各施設とも引き続き、コロナ禍の感染予防対策に重点を置きながらの営業活動となっていることから稼働率回復に時間を要しており、前年同期と比較して売上高が減少し、セグメント損失も増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は446百万円（前年同期比7.8%減）、セグメント損失は41百万円（前年同期は40百万円のセグメント損失）となりました。

④ フランチャイズ事業

フランチャイズ事業では、サルヴァトーレ・クオモ、やきとり家すみれ、プロント、ミスタードーナツ、ツタヤ、銀座に志かわ等の店舗展開を行っております。コロナ禍のピーク時よりは客足の戻りつつある店舗もあり、前年同期と比較して売上が増加しましたが、全面回復には至っておりません。そのような中、環境の変化からテイクアウト・デリバリーのニーズが増加し、売上形態を柔軟に変化させながら収支改善を図っており、セグメント損失についても抑えられました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は458百万円（前年同期比10.2%増）、セグメント損失は32百万円（前年同期は55百万円のセグメント損失）となりました。

⑤ ホテル事業

ホテル事業では、東京と沖縄で合計3棟のホテルを運営しております。新型コロナウイルス感染症の第七波が収まりつつあるとはいえ、ホテル宿泊者数の回復には時間を要しております。感染防止策を徹底し、安全で衛生的な宿泊環境を提供するという地道な努力を重ねることで前年同期と比較して売上高が増加し、セグメント損失が抑えられることとなりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は170百万円（前年同期比106.3%増）、セグメント損失は93百万円（前年同期は146百万円のセグメント損失）となりました。

⑥ その他事業

その他事業では、フードコート運営事業、太陽光発電事業、当社の営業活動のネットワークを生かした関連商品の販売事業等を行っております。フードコート運営事業において客足の増加がみられ前年同期と比較して売上高は増加いたしました。まずは売上の回復から取り組んだこともあり、セグメント損失を計上することとなりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は168百万円（前年同期比9.7%増）、セグメント損失は14百万円（前年同期は16百万円のセグメント利益）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2022年5月13日公表の「2022年3月期決算短信」に記載のとおりであり、業績予想は修正しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,174,753	6,946,089
受取手形、売掛金及び契約資産	4,235,907	3,524,244
商品及び製品	72,567	77,396
販売用不動産	5,990,354	5,502,921
未成工事支出金	16,127	44,096
原材料及び貯蔵品	34,062	38,891
その他	1,150,205	1,003,858
貸倒引当金	△80,840	△79,606
流動資産合計	18,593,137	17,057,892
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,359,732	5,278,953
土地	9,663,421	9,695,806
その他（純額）	611,549	615,553
有形固定資産合計	15,634,704	15,590,312
無形固定資産		
のれん	814,553	784,644
その他	187,475	188,567
無形固定資産合計	1,002,029	973,212
投資その他の資産		
その他	4,971,011	4,875,649
貸倒引当金	△482,000	△483,000
投資その他の資産合計	4,489,011	4,392,649
固定資産合計	21,125,744	20,956,173
資産合計	39,718,881	38,014,065

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,147,013	2,129,560
短期借入金	3,200,000	1,310,000
1年内返済予定の長期借入金	2,910,666	2,864,201
未払法人税等	584,942	574,376
賞与引当金	360,304	347,496
その他	3,023,959	2,830,824
流動負債合計	12,226,886	10,056,458
固定負債		
長期借入金	7,303,250	7,114,469
役員退職慰労引当金	230,969	233,289
退職給付に係る負債	436,894	431,181
資産除去債務	102,521	110,461
その他	1,125,435	1,000,559
固定負債合計	9,199,071	8,889,961
負債合計	21,425,957	18,946,419
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,808,800	1,808,800
資本剰余金	1,692,778	1,672,968
利益剰余金	14,807,390	15,672,394
自己株式	△78,566	△78,566
株主資本合計	18,230,402	19,075,596
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	151,695	162,750
為替換算調整勘定	△125,267	△195,224
退職給付に係る調整累計額	36,092	24,524
その他の包括利益累計額合計	62,521	△7,950
非支配株主持分	—	—
純資産合計	18,292,923	19,067,646
負債純資産合計	39,718,881	38,014,065

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	16,288,001	17,620,646
売上原価	12,934,078	13,691,602
売上総利益	3,353,923	3,929,043
販売費及び一般管理費	2,530,017	2,667,014
営業利益	823,905	1,262,029
営業外収益		
受取利息	17,926	18,762
受取配当金	4,058	16,486
受取賃貸料	16,525	16,324
助成金収入	83,613	45,061
受取補償金	39,722	524
為替差益	322	104,535
その他	70,077	51,286
営業外収益合計	232,247	252,980
営業外費用		
支払利息	31,761	33,797
支払手数料	14,606	13,626
貸倒引当金繰入額	—	1,000
その他	9,058	371
営業外費用合計	55,426	48,795
経常利益	1,000,726	1,466,214
特別利益		
固定資産売却益	3,146	3,691
投資有価証券売却益	68,490	—
特別利益合計	71,636	3,691
特別損失		
固定資産売却損	—	3,701
固定資産除却損	—	4,769
特別損失合計	—	8,471
税金等調整前四半期純利益	1,072,363	1,461,434
法人税、住民税及び事業税	370,262	503,254
法人税等調整額	14,417	17,718
法人税等合計	384,679	520,972
四半期純利益	687,683	940,462
非支配株主に帰属する四半期純利益	96	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	687,587	940,462

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	687,683	940,462
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△29,560	11,054
為替換算調整勘定	15,280	△69,957
退職給付に係る調整額	2,833	△11,568
その他の包括利益合計	△11,446	△70,471
四半期包括利益	676,237	869,990
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	676,140	869,990
非支配株主に係る四半期包括利益	96	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。